

### 第3回「(仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会 会議録要旨

#### 【会議日時及び場所】

日 時 2016年8月18日(木) 10:00~12:00

場 所 町田市役所 10-3 会議室

#### 【出席者】(敬称略)

##### ■委員

凶司 直也(委員長)、柳沢 厚(副委員長)、老沼 敬助、中丸 康明、市川 孝、田中 英夫、山崎 凱史、岸 由二、新井 英夫、尾留川 朗、間仁田 修

##### ■事務局

荻原北部丘陵担当部長、北部丘陵整備課廣瀬課長、星担当係長、中川担当係長、伊藤主任、浅場主事

##### ■傍聴者

無し

#### 【資料】

次第

(資料1) 第2回検討委員会での主な意見

(資料2) (仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン策定スケジュール

(資料3) (仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン重点事業について

参考資料

#### 【議事要旨】

- ・事務局より前回の主な意見、アクションプランの重点事業(案)について、説明を行った。
- ・アクションプランの重点事業(案)について2つのグループに分かれて検討を行った。

#### 【会議内容】

##### 1 開会あいさつ

経済観光部北部丘陵担当部長より挨拶

##### 2 議事

(説明)

- ・前回の主な意見
- ・策定スケジュールの変更点について
- ・アクションプランの重点事業(案)

上記について、事務局から説明

(意見交換)

- ・小山田(A)・小野路(B)地区の2つのグループに分かれ、意見交換

##### 3 その他

第4回検討委員会、第5回検討委員会の日時決め

##### 4 閉会あいさつ

## ■意見等

### 【意見交換 Aグループ】

#### <資料1について>

(委員)

- ・「③樹林地の災害危険性に対する安全確保」について、次の通りに修正してほしい。「小山田の緑は魅力的であると同時に、危険な緑でもあるということを認識すべきである。藪になっている農地では、水土砂災害や山林火災などの危険を回避する必要がある。」
- ・具体的には、田中谷戸は水土砂災害危険箇所、西山中谷戸は山林火災危険箇所である。

#### <重点事業①「新たな交流・回遊拠点の開設」について>

##### ●大善倶楽部の活用

(委員)

- ・市道忠生 630 号線の全線開通の予定も見え、今後大善倶楽部はアクセスしやすくなる。また、大善倶楽部の土地は市有地でもあるので、地元住民のみが使用することに限定しなくてもよいと考える。大善倶楽部の敷地を拠点としてもよいのではないか。
- ・また、大善倶楽部に隣接して、10 年前から念願の畑にしているが、地権者が高齢化してしまっている民有地（農地）や、同じく近接して、農業者に貸しているが、耕作適地ではない農地で、地域として貸してほしいとずっと要望している土地もある。更に、北側の民有地で、耕作できない状態の農地もある。
- ・付近には立派な造りの空き家もあり、現在は別の用途に使用されているが、市が借り換えて拠点として整備すれば、小野路宿里山交流館にも匹敵する交流拠点ができるのではないか。
- ・大善倶楽部とこれらの土地を使って、拠点としてもよいのではないか。

(委員)

- ・大善地区は、小山田緑地も近く拠点としては絶好の場所である。大善に活動拠点ができた場合は、西山中谷戸の山林火災危険箇所の世話や、道路沿いの雑木林管理の仕組みとセットで拠点整備に動いてもらいたい。

(委員)

- ・今後、仮に地元住民に拠点設置などの話を持っていく際は、「防災」「安全」「災害対応」をきっかけにするとよいのではないか。

(委員)

- ・地元住民は、尾根の向こうに山林火災の恐れがある西山中谷戸があるということを意識していない。地元住民に意見を聞きに行くのではなく、まずは行政が全体をみて動く必要がある。山林火災については、本来は行政が主動して動き、それに伴い地元住民の動きがある場合は、その活動に市が予算をつけて支援するといった流れが良いと考える。大善はそのような地域である。

##### ●複数の拠点の設置

(委員)

- ・現在、鶴見川源流ネットワークが活動している鶴見川源流保水の森や野中谷戸については、ツ

ーリズムに利用するための木道と、駐車場があれば活動拠点として十分である。

(委員)

- ・最終的に拠点は2つではなくもっと多くあってもよいのではないか。

(事務局)

- ・アクションプランでは、今後4年で「小野路宿里山交流館」のほかに、もう1箇所拠点を設置することを目標としているが、年度目標に限らず話がまとまれば、拠点は複数できてもよいと考える。

(委員)

- ・直売所として野菜を置くだけでなく、人がどうやって出入りするかを含めた、ランチシステムも考えるということにしてはどうか。

(委員)

- ・下小山田の「町田リサイクル文化センター」建て替えの検討時に、モノレール路線の脇に「道の駅」を作ってほしいとの地元住民の意見があった。私は3-4-40号線の脇が良いのではないかと考える。

(委員)

- ・上小山田地域の泉の広場やバイオトイレ周辺は、「市道忠生579号線の道路整備がまとまるまでは大きく動かないでおこう」という雰囲気がある。

(委員)

- ・小田急多摩線延伸の新駅設置を受けて、地域は浮足立っている中で、「北部丘陵活性化計画アクションプラン」の中で何もアイデアがないのはどうかと思う。

(事務局)

- ・「北部丘陵活性化計画アクションプラン」では2020年度までに実施することを記載する。2020年度以降は、「北部丘陵活性化計画」の改定を予定している。その際に小田急多摩線延伸による新駅周辺の話盛り込んでいきたい。

(委員)

- ・小田急多摩線延伸による新駅や幹線道路の話は少し先の話。今は、農地とツーリズム、危険な山林の防災をどうするのかに絞り込んで検討するのが良い。

## <重点事業②里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築について>

### ●各地域での活動のイメージ

(委員)

- ・野中谷戸には、既に企業や市からのお金が入っており、自然再生はなされている。それをツーリズムに活用するために、谷戸の中を通過して都道155号線へ出られるような木道ができるとよい。そのどこかに、車や物置が置ける場所があればよい。
- ・鶴見川源流は極めて危険なので、市民が手を付けない方がよい。
- ・北の谷は、田中谷戸街づくり協議会が山つつじの里づくりを進めてほしい。
- ・西山中谷戸は、町田市と大善地区の地元住民が協働して、長期的に考えて、火災防災、自然再生を進めてほしい。土地区画整理や都道整備があってもよいと考える。将来的には、北部丘陵の小山田地域の観光農業を支える大拠点ができてよいと考える。

## ●モデル地区の場所

(委員)

- ・モデル地区は、大善地区と、都市計画道路 3-4-40 号線の尾根道としてはどうか。少なくとも、尾根道の散策路整備程度。閉鎖するにしても、雑木林の管理をしなければならない。ただし、西山中谷戸は広いので、市民団体の力だけでどうにかなるものではないので、何かしらの特別予算が付いた際に一気に伐採し、その後、予算をつけて市民団体が日常的な管理をすることが望ましい。

## ●源流の泉～長池公園を結ぶ遊歩道の整備

(委員)

- ・源流の泉から展望広場、長池公園へつながる六尺道などを活用し遊歩道整備（草刈り）し、人を呼び込むのが良いのではないかと。市が予算をとって進めてはどうか。
- ・長池公園からまっすぐに鶴見川源流に行けるルートがあるとよい。

(委員)

- ・そこについては、展望台を作ってほしい。一番の眺望点から鶴見川の河口が見える。
- ・遊歩道整備の前に、地元を固めて、「北の谷を誰が管理するか」「山つつじの里をどうするか」を考えてほしい。今日は、誰が何をするかを話し合いたい。現状で、NPO法人鶴見川源流ネットワークが管理しているが、メンバーも高齢化しているため、今後は、地元住民の組織を作って北の谷を管理してほしい。そのために拠点が必要であれば、作りましょうという話にしてもらいたい。上小山田町内会とまちづくり協議会に何ができるのか。できるのであれば必要な手伝いはする。ぜひその組織を形作ってほしい。

## ●地元住民が活動を始めための仕組みづくり

(委員)

- ・総論が良くても、いざ動こうとするとお金がないと動かない。いくらかでも報酬がないと、地元住民は動かない。忠生 579 号線が開通すれば動くと思う。

(委員)

- ・例えば、呼び水として 10 万円程度用意し、「それを使って地域で知恵を出して仕組みを作ってもらえますか」と投げかけることなどもあり得る。

(委員)

- ・4 回/年の草刈りをそれに充ててもよい。地元住民が音頭を取って、「北の谷草刈り会」や「上小山田町内会草刈り会」を組織し、それに市から 10～20 万円/年程度予算がつくという動きも考えられるのではないかと。
- ・それができれば、今回はそこまででも良いのではないかと。

(委員)

- ・少しでも予算が付けば、人は出てくるかもしれない。きちんと整備しようとする、仕組みや予算が必要である。

(委員)

- ・町内会経由での組織化は難しく、新たに会を立ち上げる必要がある。
- ・現在、道普請活動などは実施している。

(委員)

- ・草刈りに関心がある方に、自分から声掛けすることはできる。上小山田町内会が窓口になって町田市から町内会へ、草刈りに対して何らかの形でお金を出すことは可能なのではないか。

(委員)

- ・現在、忠生 630 号線沿いのサービス付き高齢者住宅のあたりの草刈りを、市はシルバー人材センターに委託しているが、地元組織に委託してもらえたら進めることができるのではないか。

### ●各地域での活動のイメージ（２）

(委員)

- ・野中谷戸は、NPO法人鶴見川源流ネットワークが管理する。
- ・大善地区は、中丸委員の声掛けで地元住民による活動が実現化しそうである。
- ・上小山田地区は、現在実施している道普請を軸にして、可能な組織を工夫する。組織ができる場合、市として資金を投入する仕組みができるかが、今後のポイント。

(委員)

- ・草刈りには、大学生が手伝いに行くことや、技術指導を受けることも考えられる。

### <重点事業③「(仮称) 町田市山林バンク」の実施について>

#### ●山林バンクの実現性

(委員)

- ・山林バンクの活用について、シイタケの原木や木のチップ化などが考えられるが、活動する団体にとって採算が合わないのではないか。また、炭焼きなどによる山林の活用も考えられるが、炭を焼く臭いに周辺からクレームがあると聞く。山林バンクで、お金がかからないやり方という展開は無理があるのではないか。

(事務局)

- ・山林で収益をあげることは難しい。そういったものも含めて、今後４年間で、市有地、民有地の活用も視野に入れ、山林バンクの取り組みをモデル地区で進めたいと考える。実際に、マウンテンバイクを愛好する方々で、山林の草刈りなどにより地域に貢献している団体がいる。あきる野市などでは、山林をマウンテンバイクの走行場として活用したりしている。

(委員)

- ・木の材そのものに価値を見出す人、山林を切り拓いて活動することに価値を見出す人、森林に手を入れたい人など山林に見出す価値は様々にあるのではないか。

(事務局)

- ・モデル地区の候補をいくつか出して、実際に山林バンクをやってみてどうなのかを研究するのが今回のアクションプランの狙いである。

### <重点事業④「『(仮称) 北部丘陵まちづくり推進会議』の設置」について>

### ●「北部丘陵まちづくり推進会議」への出席者

(委員)

- ・「北部丘陵まちづくり推進会議」について、各団体からの出席者は2名以上入れてほしい。そうすれば、小山田・小野路両方の議論に参加でき、全体が把握できる。

(委員)

- ・複数名の参加が可能なら、個人としてではなく町内会として判断しやすくなる。

(委員)

- ・検討の途中で、委員以外の各団体の代表が出席できるような「拡大検討会」などを開き、議論の内容を共有してもよいのではないか。

### <重点事業⑥「北部丘陵での活動や魅力の効果的な情報発信」について>

#### ●「町田市観光コンベンション協会」と地域の活動団体の協働

(委員)

- ・「町田市観光コンベンション協会」と現在、地域で活動している活動団体との協働について、市が間に入って、具体的に進めてもらいたい。
- ・検討委員会の中で、「町田市観光コンベンション協会が鶴見川の源流へ行っている」との話があったが、我々の団体は連絡を受けたことがない。鶴見川の流域では既に国土交通省が事務局となってバスツアーを実施しているので、つなげてもらいたい。

### <その他>

#### ●市街化調整区域内での地籍調査の実施

(委員)

- ・現在、敷地境界が全く分からない状態である。北部丘陵の活用のためにも、地籍調査を進めてもらいたい。

#### ●次回に向けた資料づくり

(委員)

- ・次回は市有地と民有地の場所がどこかわかる大きな図面を見ながら議論したい。

## 【意見交換 Bグループ】

(委員)

- ・前回出た議論については、資料1でまとめてある。資料3 6つの重点事業について妥当かどうかなどについて意見を頂きたい。

### ●事業を具体的に検討すべき

(委員)

- ・提案されているアクションプランがプロジェクト計画に見えない。北部丘陵活性化計画の4つのプログラムを実現するための6つの重点事業としてとらえるべきであり、具体的な事業計画をイメージさせるものにすべきと考える。計画のための計画とすべきでない。
- ・どんな進め方で、どんなアクションを起こしていくかを具体的にだす議論としたい。

(委員)

- ・同意である。「主な内容」について、本日の議論の中で具体的な内容にしていきたい。

(委員)

- ・4つのプログラムを達成するための6つの事業であり、プロジェクトと事業は縦割りではない。

### <重点事業①「新たな交流・回遊拠点の開設」について>

(委員)

- ・重点事業①から順に意見を頂きたい。
- ・里山交流館により北部丘陵を楽しむためには拠点が必要であることが証明された。そのため、第2の拠点が必要だということ。

### ●具体的な事業計画（拠点の候補地、収益方法等）の検討

(委員)

- ・里山交流館がどのような事業計画を立てたのかが重要である。本事業の目標が施設の整備数となっているが、それよりも、どのくらいの人を集客するか、野菜の販売売上をどのくらい見込むのかを考えないと、新たな拠点の具体的な施設イメージができない。同様の施設を建設することは難しいと考えるが、今の里山交流館の利益構造を見ながら考えたい。地元の産物や飲食による収入にたよるといふよりかはさまざまなイベントを通して大きな収入を得ていると考える。

(委員)

- ・本事業では、成り立つことを前提に計画されているが、本当に事業として成り立つか背景を押さえないということである。

(委員)

- ・新たな施設をどこに設置するかが一番重要である。人を集客できるかはやり方次第と考える。里山交流館では、スタッフが来訪者を一生懸命おもてなしした結果、PRしなくても1日100人訪れるようになり、イベントを行うことも可能となった。そう言う意味でも、おもてなしできる人員の確保が重要であり、地元がどれだけ参画してくれるかが重要。地域の中から、

ここでやってみようという意見・雰囲気はまず大事。

- ・新たな拠点については、里山交流館との距離も大事だと考える。歩いて 2 時間が良いのか、適正な距離の検討がつけば、具体的な場所がイメージできる。奈良ばい谷戸も良いが、交流館からは歩いて 30 分程度のため、近いのではないかと思う。

- ・また、新たな拠点は、里山交流館とは異なる特色が必要と考える。

(委員)

- ・新たな拠点については、小山田にある UR の土地で何かできないかと、事業者から相談持ちかけられたことがある。子供たちを対象としたふれあい農園を考えていたようだ。

(委員)

- ・市としては、既存施設のイメージを提案して頂ければ、コンセプトや対象者をイメージしやすいと考えているのではないか。

(事務局)

- ・活用できる具体的な場所のイメージを教えて欲しい。

(委員)

- ・尾根幹線道沿いに UR が所有しているまとまった土地（更地）がある。

(委員)

- ・目標水準（2020 年）に 2 施設とあるが、小野路と田中谷戸と 2 箇所という意味か。

(事務局)

- ・今後 4 年間のあいだに里山交流館に加え、もう 1 施設をイメージしている。目標水準は 2 施設とあるが、3、4 施設でも良い。

(委員)

- ・距離的には、小山田の方（大善等）が候補となるだろう。小山田緑地でトイレは利用できる。地域でできる組織が立ち上がれば良いだろう。車やバスでのアクセスを考えると場所はある程度限定されるかもしれない。

(委員)

- ・具体的な場所で、コンセプト、対象者をイメージして進めることが大事であり、その時に、地元がどれだけ協力できるかが重要だということによいか。

<重点事業②「里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築」、重点事業③「(仮称)『町田市山林バンク』の実施」について>

(委員)

- ・関連の深い重点事業②③についてはまとめて意見を頂きたい。

#### ●竹の子の通年販売等の収益を得る方法

(委員)

- ・竹の子から作ったすめを持参した。鳥取県の南部町で製造している。
- ・地産地消を考えた時、地域で収穫できる農産物で一定の収益を上げることができることが重要。小野路の竹の子を通年販売する方法を考える必要がある。竹の子すめ以外にも竹粉を活用した製品を販売することが考えられる。竹ぬか漬け、乳酸菌竹パウダー、土壌改良用竹



粉等ある。

(委員)

- ・里山交流館でも、新たな戦略が必要だと考えている。先日、TVの収録で宿通り北側の竹藪を歩いたが、雰囲気がとてもよかった。現在は荒れているが、手入れさえすれば、新たなフットパスルートになると考えた。先日、みどりのゆびが竹藪を活用して忍者ごっこイベントを行い、親子連れが多く訪れた。活用次第では高齢者だけでなく、若い人も訪れるようになる可能性があり検討の余地があると思う。一つの事業として成り立つのではないかと思う。

(委員)

- ・良質な竹の子をつくるのに、林野庁の補助金「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」が役立つだろう。市有地でも公有地でも活用でき、荒れた山林を整備するための補助が受けられる。

(委員)

- ・前回、委託費を受けていても自主事業により収益を上げてよい仕組みを作りたいという意見があったが、その他に意見はないか。

(委員)

- ・収益を得る方法として農産物の販売でなくてもよいと考える。小学生を対象とした体験農業、高齢者向けの昔ながらの農業の伝承、自然のもの（落ち葉、牛糞）を使った有機栽培なら農産物を販売するのもよい。

(委員)

- ・農産物を販売することを認めるならば、農薬をあまり使用しないなどの農産物をつくるルールについては、地域全体で必要だろう。山林バンクについて何か意見はないか。

## ●山林保全の担い手や具体的な展開イメージ

(委員)

- ・山林バンクについて質問がある。昨年、北部丘陵里山環境維持保全実施計画について検討したが、その際、山林は定期的に伐採することにした。その計画と本事業との関係はいかに。

(事務局)

- ・北部丘陵里山環境維持保全実施計画では、定期的に伐採する場所として、現在手入れしている奈良ばい谷戸、保水の森を対象としている。本事業で新たな担い手探しを考えているのは、活用していない山林である。

(委員)

- ・手入れというが、どのくらい手入れする想定なのか。
- ・小野路では、宿通りを挟んで山に囲まれており、小野神社側は市が所有している竹林が多いが、反対側は民有地が多い。市有地のほうが手を付けやすいため、そこで先行的に手入れすれば、民有地の所有者を動かすことができるのではないかと考えられる。そのため、市有地と民有地がわかる地図がほしい。
- ・地元は高齢者が多いため、荒れた竹林に手を入れられない実態がある。すべてをきれいにすることは難しいため、例えば、木こり応援隊にお願いし、年に数回スポット的に手入れするのが良い。現在、ボランティアに謝礼を出すことができないため、切り倒した木材を販売す

るなどして、人件費を生み出す必要がある。

(委員)

- ・誰が保全の費用負担するのか。山林をフィールドとして活用してもらイメージか。

(委員)

- ・山林の手入れに来てくれるのは、大人が中心であり、里山の手入れをするのが楽しみという人が来てくれている。今は、謝礼（交通費も）を出すことができないため、そうしたお金を捻出できれば、ボランティアも継続するのではないかと考える。

(事務局)

- ・山林を管理してもらというよりは、活動のフィールドとして利用してもらいたいというイメージである。例えば、マウンテンバイクのコースとして活用するなど、実際あきる野市では実績がある。

(委員)

- ・マウンテンバイクについては私有地を勝手に走っていたりするため、農家の方が困惑している。マウンテンバイクがどこでも入れるようにしないために、この場所なら良いという場所をつくるのもよいだろう。

(委員)

- ・課題も多いため、今後も内容を詰める必要がある。

#### <重点事業⑤「幹線道路等の計画・変更等」について>

##### ●計画道路の進捗状況

(委員)

- ・計画道路について意見を頂きたい。町田 3-4-22 号線等都市計画決定されているのか。

(委員)

- ・地元でも期待されているが、町田 3-4-22 号線については、実現性があるのか。

(事務局)

- ・東京における都市計画道路の整備方針（第4次事業化計画）において、位置づけはされているが、どの路線から優先的に事業を進めるかはわからない。

(委員)

- ・町田 3-4-22 号線については、小野路宿通りを広幅員に整備しながら修景を行う代わりに、優先度を下げた経緯がある。

(委員)

- ・小野路宿通りの整備は終了したのか。

(委員)

- ・事業が進められており、あとは、電柱を地下埋設にするまで1年半かかるといわれている。

(事務局)

- ・2020年度の目標水準として2路線としているのは、市道忠生 579 号線（Ⅰ期）、市道忠生 630 号線（Ⅱ期）である。

(委員)

- ・町田 3-4-20 号線の延伸、町田 3-4-22 号線の線形見直しとは、具体的に何か。

(事務局)

- ・町田 3-4-20 号線については、多摩都市モノレールの路線となっているためモノレールの路線形状次第である。また、町田 3-4-22 号線については、幅員の変更である。

(委員)

- ・多摩都市モノレールの駅や小田急多摩線の延伸に伴う駅がどこにできるかで、拠点の位置を考える必要があるのではないかと。また、現在、リニア新幹線の非常口をつくるために、上小山田で工事が始まっている。土砂を運搬するダンプカーのために道路を新たにできると聞いたが、現在の道路計画と大きく異なるのか懸念している。

(事務局)

- ・JRからは尾根幹線道路へ通すために仮設で道路をつくる案もあると聞いているが、上小山田地域の西端のため、現在の道路計画に影響はない。

#### <重点事業④『(仮称)北部丘陵まちづくり推進会議』の設置』、重点事業⑥「北部丘陵での活動や魅力の効果的な情報発信」について>

##### ●広域的な視点をもった情報発信方法

(委員)

- ・情報発信については、町田市内に限定されている感じを受けるため、もう少し広域的な視野が必要だと思いがいかか。

(委員)

- ・我々も、多摩方面や相模原方面の方へ、どう発信するかを検討している。近隣都市へどうPRしていくかが重要だと考えている。

(委員)

- ・パンフ等は、活動団体ごとに活動団体エリアを中心につくっており、その情報を、各団体のHPから発信している。近場よりも地方の方からの問い合わせが多い。

(委員)

- ・町田市観光コンベンション協会では、八王子市の長池公園と連携しウォーキングを実施している。また、新選組のツアー時は、多摩市と連携した。
- ・八王子市と一緒に、町田市との両市境をまたいだ地図を作成したこともあり、利用者には好評である。
- ・市の広報には、町田市のことしか掲載できないため、隣接市をまたいだ散策ルートを設定することができない。そのため、独自のHPで広報したり、口コミで広げたりしている。実際、散策イベントに参加してくれた方からは、市境をまたいだコースは人気がある。市境をまたいでウォーキングすることで、両市の良さを発見できる。

(委員)

- ・町田市も交流人口を増加させることを掲げるならば、もっと広域的な視点で考えるべきであり、例えば、地方のある都市に市民を送り込み交流を図り、逆に、その都市から町田市へ訪れてもらうという交流の仕方も考えられる。

(委員)

- ・町田市観光コンベンション協会では、エージェントを活用し地域をPRしている。ただし、

北部丘陵地域の場合、一気に観光客が増加したら拠点パンクするため、ある程度限定する必要はあるだろう。

●テーマを絞った情報発信が効果的

(委員)

- ・全体を通して、意見はないか。

(委員)

- ・町田市が開く必要がある。たとえば、地域情報誌「まちびと」で他市を紹介するコーナーを企画し、他市に情報を提供してもらえば、逆に、他市に紹介してもらい機会を得る可能性がある。それが他市との交流のきっかけになるのではないか。

(委員)

- ・広報する際は、テーマを絞った方がよい。地域マガジンに地域情報を掲載し、それを発信するのが効果的である。

(委員)

- ・周辺自治体と連携し地域ブランド力を高め、遠くの地域からも可能性がある地域と見られるようにしたい。

【全体】

(委員)

- ・Aグループでは、以下の意見が出た。
- ・重点事業①「新たな交流・回遊拠点の開設」について、大善を拠点にしてはどうかとの意見があった。
- ・重点事業②「里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築」について、防災安全の側面から整えていくことが地元として大切。草刈りは地元の負担が大きいため、何らかの仕組みを組み合わせ、市が地元へ入っていき、それをNPO団体等の活動団体がサポートするなど。
- ・重点事業③「『(仮称) 町田市山林バンク』の実施」について、具体的にどこでやるかの意見が出た。
- ・委員から、委員会の内容を地域に落とし込む際に大変であるとの話があったため、「拡大委員会」という形でここでの議論を共有する機会があってもよいのではないかと意見があった。

(委員)

- ・Bグループでは、重点事業①～⑥について一通り意見を頂いた。
- ・全体を通じて、抽象的な表現を具体的に考えるべきであるとの意見が出された。特に重点事業①「新たな交流・回遊拠点の開設」について、コンセプト・対象者を明確にしたうえで、具体的な場所を特定して担い手等を具体的に検討すべきである。
- ・重点事業②「里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築」については、収益を得る方法として具体的にイメージが必要である。例えば、竹の子を2次製品（するめ、竹の子粉等）に加工して販売することができると、尾留川氏から商品を提供いただいた。
- ・重点事業⑥「北部丘陵での活動や魅力の効果的な情報発信」については、情報発信対象を市

内に限定するのではなく、関連の深い多摩市、相模原等の近隣自治体との連携の中で情報発信すべきだという意見が出された。テーマを決めて発信すべき。

(委員)

- ・各地域とも、誰がどこで何をする等の具体的な意見が出されたようである。実際、アクションプランを進行させるときにも具体的な内容が重要となってくるため、次回以降も引き続き具体的な議論をお願いしたい。

## 【その他】

### ●鶴見川の流域の上位計画の記載

(委員)

- ・北部丘陵は、鶴見川流域全体を見ても大変重要であるため、アクションプランの中に「鶴見川流域水マスタープラン」の内容を加えるべきであり、また、「流域水循環計画」を受けて内容を考えるべきである。

### ●都市計画道路の記載

(委員)

- ・重点事業⑤「幹線道路等の計画・変更等」について、幹線道路に都市計画道路 3-4-40 号線が入っていない。載せた方が良いのではないか。

(事務局)

- ・都市計画道路 3-4-40 号線は都道であり、東京都が定める「第 4 次事業化路線」には入っていないため今後 4 年以内に事業が動く可能性は低いが、書き方を工夫し、掲載する。

### ●対象地の整備後のイメージの整理

(委員)

- ・今回は、プログラムベースでアクションをまとめるだけでなく、現場の地べたベースでのまとめが必要。今回対象にしなければならない場所はどこで（小山田地域であれば、大善、西山中谷戸等）、それぞれの場所がどのようなイメージになるかがマトリックスでわかるような資料も必要である。すべてが書けなくてもよいと考えるが、そういった資料を作成してほしい。

(事務局)

- ・第 4 回検討委員会は、9 月 27 日（火）13：30～16：30、町田市庁舎の 2-1 会議室で開催する。
- ・第 5 回検討委員会は 11 月 1 日（木）午後。場所や時間は追って連絡する。

以上